

資料1 前期1学年実践授業プログラム

表2 前期1学年実践授業プログラム

回数	エクササイズ	ねらい
1回 4月	担任クイズミリオネア	○担任のことを多角的に知り、リレーションをつける ○隣の席同士で相談することで、仲間作りのきっかけとする。
2回 5月	自己紹介ビンゴ	○多くの仲間に自分を知ってもらい。友だちの個性を理解する。
3回 6月	3タイプのあいさつ	○3つタイプのあいさつから受けるイメージを感じ取り、あいさつの大切さを理解する。
4回 7月	バースデイライン すごろくトーク	○子ども同士の横のつながりを深めるとともに、ジェスチャーを使ってコミュニケーションを図る。 ○自己開示を進めると同時に、自他理解を深める契機とする。

資料2 前期エンカウンターアンケート（生徒）

7月中旬に前期のまとめとして、生徒にアンケートを取った。図1はその結果をグラフにしたものである。

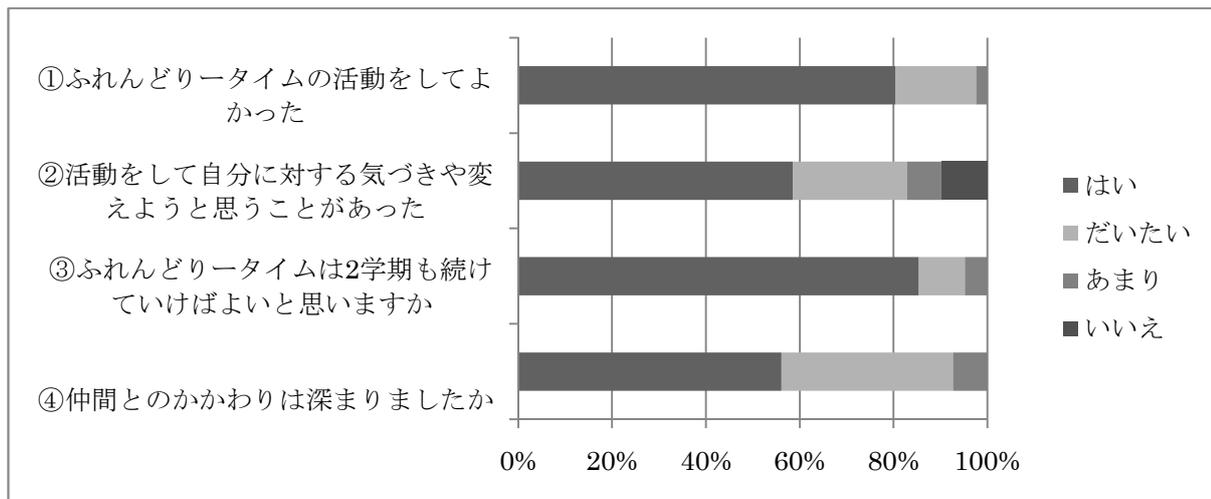


図1 前期エンカウンターアンケートのまとめ

資料3 人間関係チェックシート

()年()組 なまえ()

学校の評価などには全く関係ないので安心して答えてください。
それぞれの質問をよく読んで、よく考えて、自分に一番近い数字に○をつけてください。

- 5=よく当てはまる
- 4=だいたい当てはまる
- 3=すこし当てはまる
- 2=あまり当てはまらない
- 1=まったく当てはまらない

- ① ふだん、他人の目を見てよく会話している。 5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
- ② ふだん、状況にあった話や行動をしている。 5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
- ③ ふだん、自信のある態度をしている。 5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
- ④ ふだんから心を開いてみんなに接している。 5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
- ⑤ ふだん表情が豊かで明るいと思う。 5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
- ⑥ ふだん人の話に関心を持って聞いている。 5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1

資料4 後期1 学年授業実践プログラム

第5回の実践授業は筆者の実習の都合からかかわることができなかったので、この報告からは除外する。

表3 後期1 学年授業実践プログラム

回数	エクササイズ	ねらい
6回 10月	しりとり さいころトークング	○自己開示を進める契機とすると同時に楽しい雰囲気を作る。 ○話を聞く体験、話を聞いてもらえる体験を通して自分と他者を考える。
7回 11月	そうですね いいとこさがし	○自分が受容される体験をすることで、心地よさとそれがもたらす心の安定に気づく。 ○互いに認め合うことは、信頼と好意に満ちた温かな学級風土の基本である。級友から認められるメッセージをたくさんもらうことで自己肯定感、自尊感情を高める。

資料5 振り返りシートによる授業評価の結果

各授業の終了時に記入した振り返りシートの授業評価を項目別に示す。(図2、3、4、5、6)
第5回の実践授業は筆者の実習の都合からかかわることができなかつたので、この報告からは除外する。

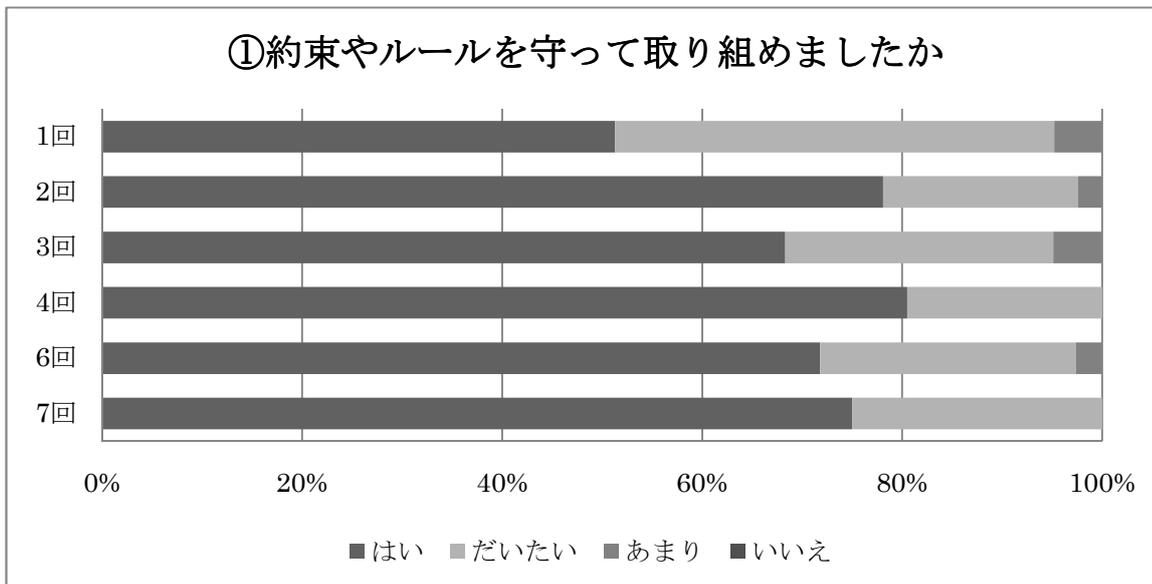


図2 授業評価項目①

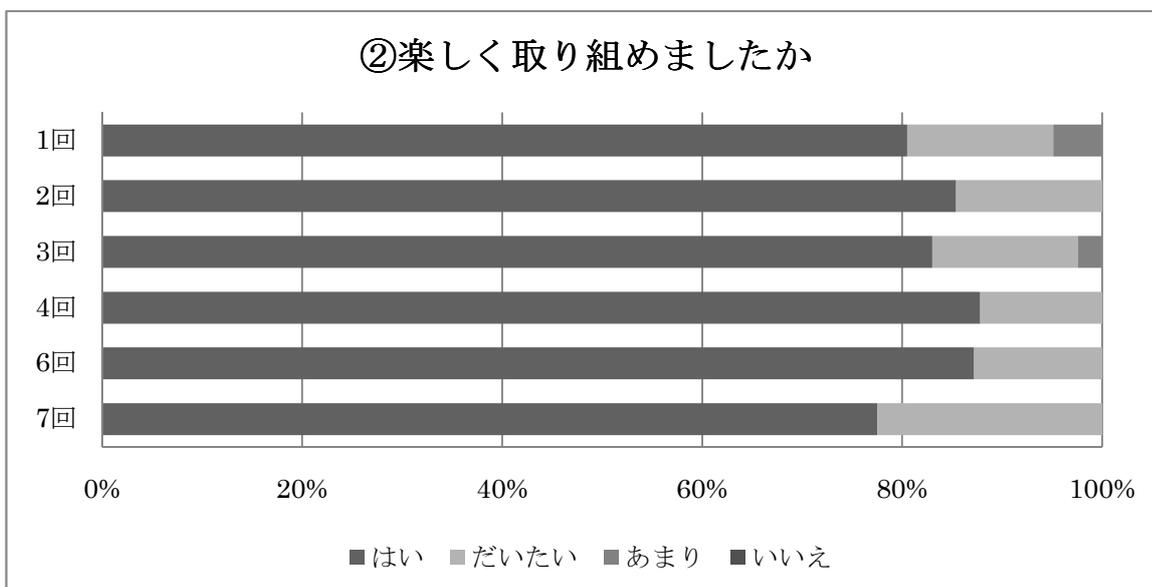


図3 授業評価項目②

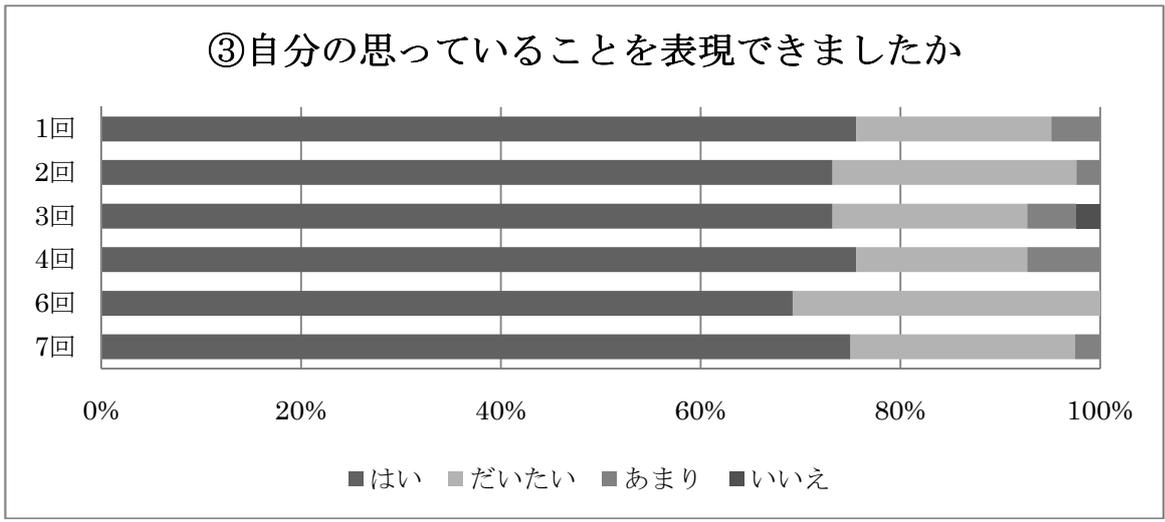


図4 授業評価項目③

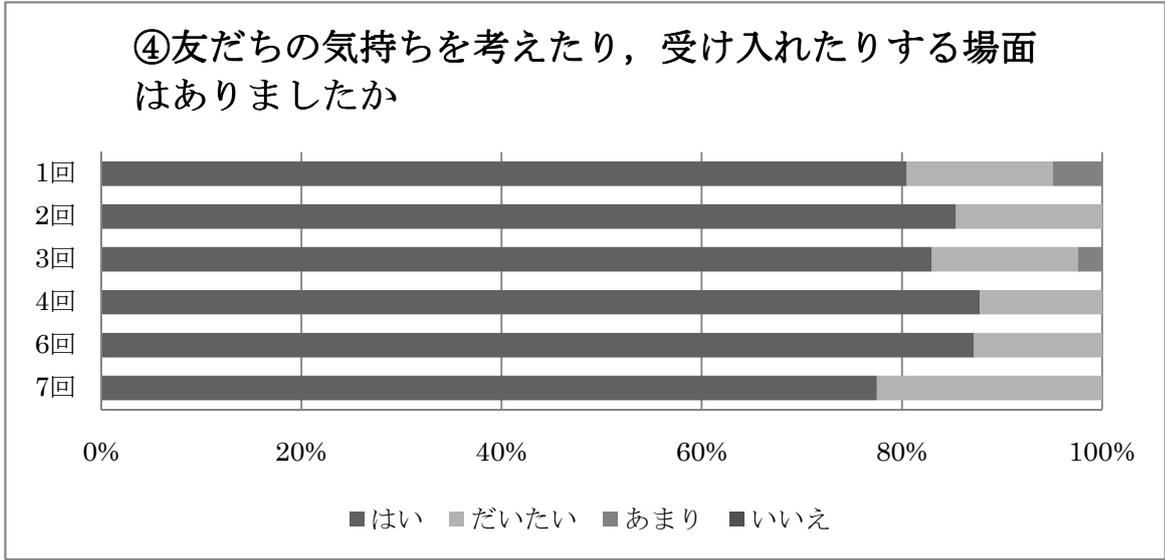


図5 授業評価項目④

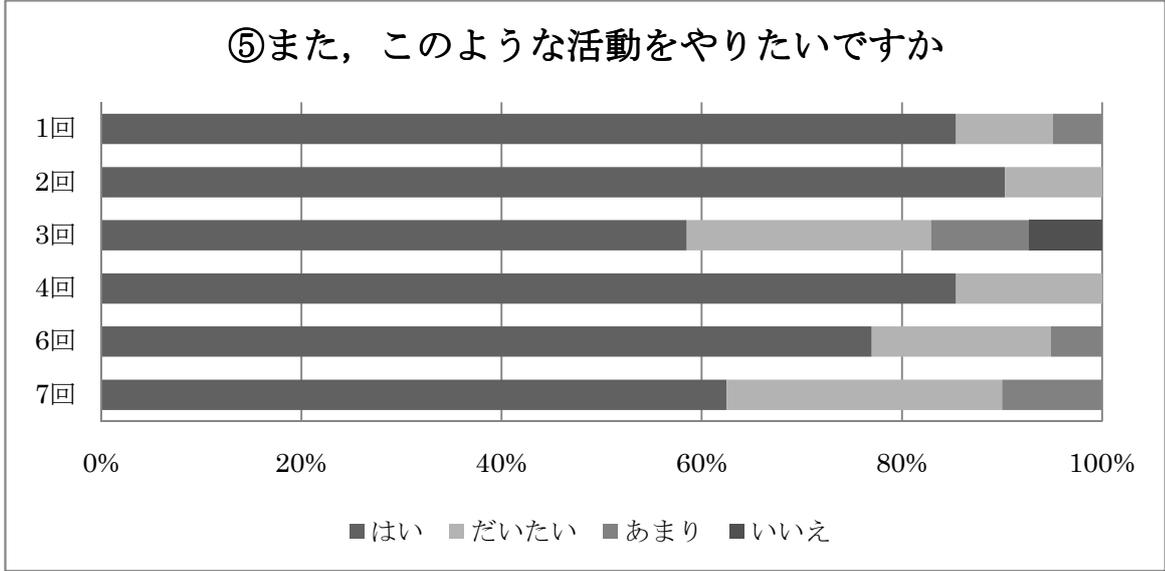


図6 授業評価項目⑤

資料6 人間関係チェックリストの結果

構成的エンカウンター・グループの実践授業によって、人間関係づくりが促進されたかどうかの測定方法として「人間関係尺度チェックリスト」(国分、1987)を一部変更(資料2参照)して使用した。チェックリストは「①他人の目を見てよく会話している(自己主張)」、「②状況にあった話や行動をしている(自己理解)」、「③自信のある態度をしている(受容性)」、「④心を開いてみんなに接している(信頼性)」、「⑤表情が豊かで明るいと思う(感受性)」、「⑥人の話に関心を持って聞いている(他者理解)」の6項目で構成されている。回答形式は「よく当てはまる」「だいたい当てはまる」「すこし当てはまる」「あまり当てはまらない」「まったく当てはまらない」の5段階評定であり、それぞれ順に5点から1点の配点とした。事前調査は9月初旬、事後調査は6回目と7回目の授業終了後、追跡調査は7回目の最後の実践授業終了から1ヵ月後に実施した。

図7は、4回の調査における全項目の学年平均値の推移を示したものである。事前の学年平均は3.3点、事後10月は事前より0.8ポイント増加し4.1点、事後11月はさらに増加し4.2点であり、追跡は3.9点である。

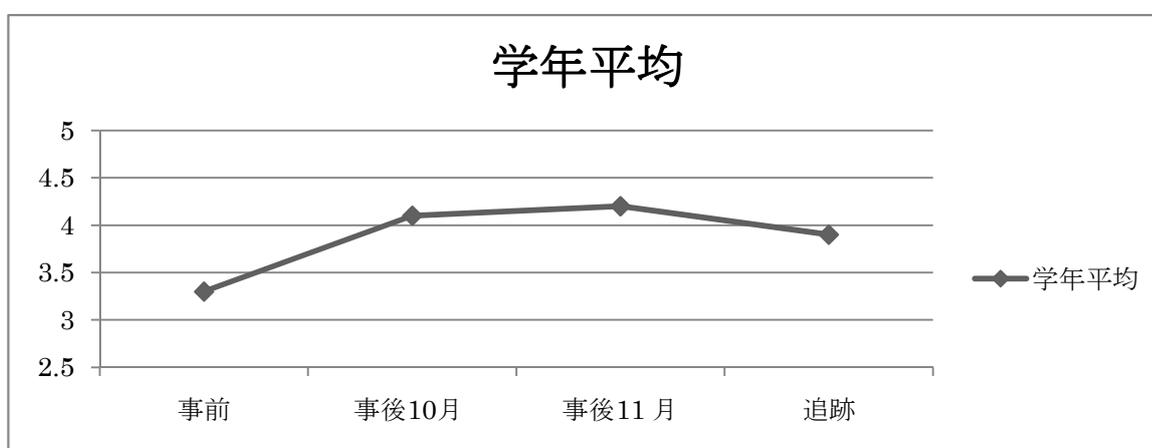


図7 学年平均の変化

図8・図9は、4回の調査における項目別の学年平均の推移を見やすくするために3項目ごとに示したものである。項目による得点差は0.7ポイント程度あるが、全体的には事前から事後にかけて全項目のポイントが増加し、事後から追跡にかけてわずかにポイントが減少している。事前から追跡まで全項目がほぼ同じ変化を見せている。4回の調査を通して得点が低かったものは受容性である。逆に得点が高かったものは他者理解であった。

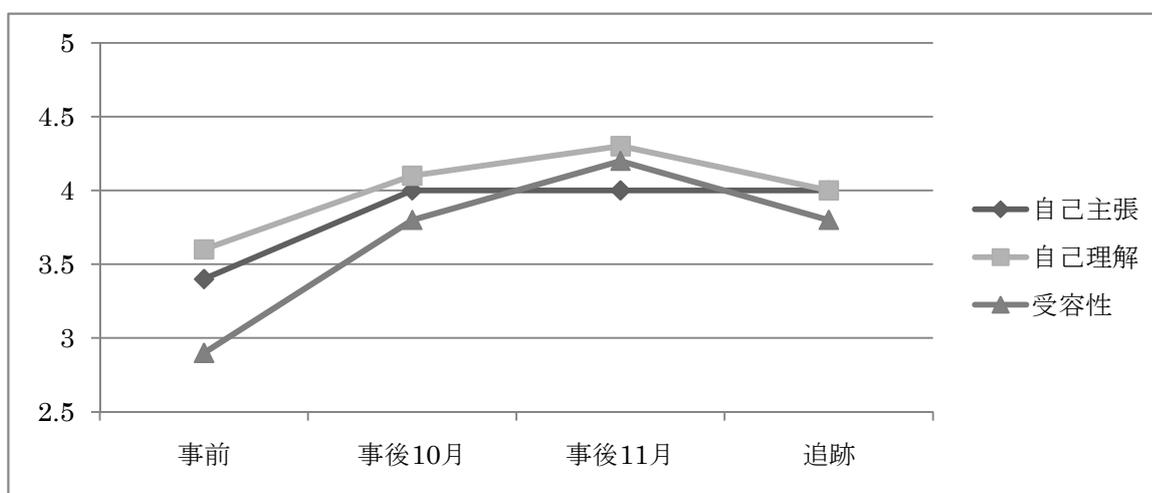


図8 項目別の变化 その1

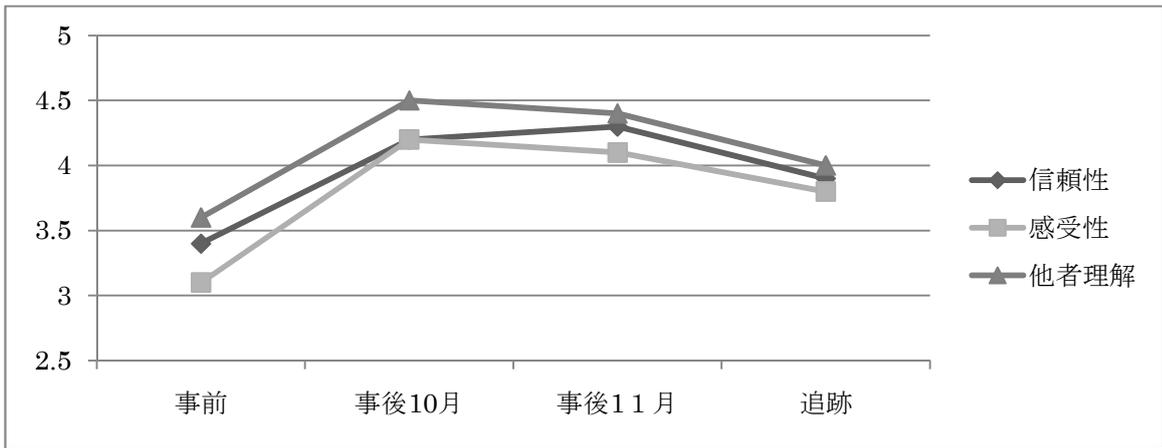


図9 項目別の変化 その2

図10は、事前の結果から全項目の平均値が4点以上をA層、3点以上4点未満をB層、3点未満をC層とし、事前調査と比べて10月の事後調査の評価点が高くなった生徒の割合を項目ごとに示したものである。11月の事後調査の結果は10月の事後調査とほぼ同じ結果であったのでここでは示さなかった。C層は、自己主張を除く他の項目でA層・B層より高い比率を示している。全項目平均では、A層67%、B層96%、C層100%であった。

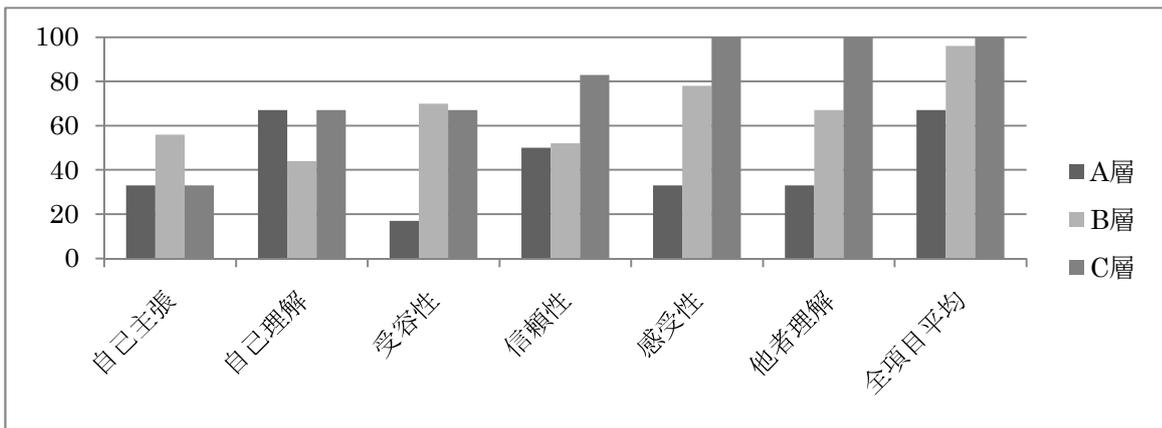


図10 事前調査と事後調査10月の比較による各層の改善した生徒の比率

図11は、事前の結果から全項目の平均値が4点以上をA層、3点以上4点未満をB層、3点未満をC層とし、事前調査より追跡調査の評価点が高くなった生徒の割合を項目ごとに示したものである。C層は自己主張と受容性を除く他の項目において高い比率を示している。全項目平均では、A層50%、B層85%、C層100%であった。

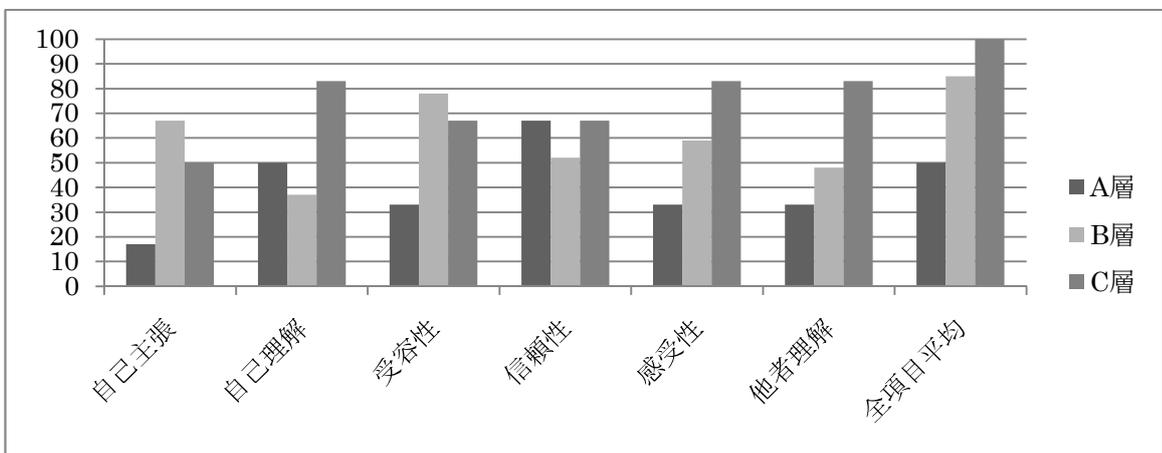


図11 事前調査と追跡調査の比較による各層の改善した生徒の比率

資料7 教師アンケートの結果

実践授業プログラム全体が終了した後、11月に教師に対してアンケートを実施した。その内容は3項目で、①望ましい人間関係づくりの方策として、構成的エンカウンター・グループを導入しましたが、導入してよかったと思いますか、②構成的エンカウンター・グループが学級の人間関係づくりに影響を与えたと思いますか、③今後も構成的エンカウンター・グループを実践していこうと思いますか、について、はい、ある程度は、あまり、いいえの4件法で回答を求め、理由を記入してもらうものである。その結果(表3)を次に示す。

表3 教師アンケート結果

①望ましい人間関係づくりの方策として、構成的エンカウンター・グループを導入しましたが、導入してよかったと思いますか
「はい」14人(100%) 「ある程度は」0人 「あまり」0人 「いいえ」0人
<p><理由>・生徒の活動の様子やその後のアンケートの結果を見てもその効果は明らかである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別活動のねらいの達成に有効な手法の一つである。学級担任のスキルになる。 ・生徒がこの時間に前向きに楽しんで取り組んでいる。 ・普段見られない生徒の一面を見ることができて有意義である。 ・生徒理解に有意義であった。とくに生徒の人間関係がよく見えた。 ・生徒の自他理解、コミュニケーション能力を高めるきっかけになる。 ・人とかかわることが苦手な集団に、コミュニケーションの体験を自然な形で与えることができた。 ・校内の適切な教育的支援につながっている。 ・人間関係づくりの基礎になる部分である。
②構成的エンカウンター・グループが学級の人間関係づくりに影響を与えたと思いますか
「はい」7人(50%) 「ある程度は」7人(50%) 「あまり」0人 「いいえ」0人
<p><理由>・授業を通して友達と触れ合うことが好きになった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の自他理解、コミュニケーション能力、自己肯定感を高める場になる。 ・生徒がかかわり合う活動を通して、新しい発見があった。 ・エクササイズを体験することで、周りへの気配りにつながっている。 ・集団づくり、教師と生徒の関係づくりに有効である。 ・男女の仲が良くなった。 ・この活動をきっかけとして、次の段階でどう取り組むかが大切である。
③今後も構成的エンカウンター・グループを実践していこうと思いますか
「はい」14人(100%) 「ある程度は」0人 「あまり」0人 「いいえ」0人
<p><理由>・人間関係づくりの手立てとして、実践していく必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間関係づくりに生徒の興味が高く、人間関係づくりに効果的だから。 ・学級担任の人間関係づくりのスキルになる。 ・生徒が変化を見せ始めている。 ・生徒や社会の変化に対応するためにも、意図的に人間関係づくりをする場が必要である。 ・教師と生徒の距離を近づけることにも有効であるから。 ・実施する時期や回数なども検討し、計画的に継続して実施していきたい。

資料8 第1回Q-Uを用いた事例研究のための報告シート

河村・小野・粕谷・武蔵(2004)の事例提供者の報告基礎資料を参考に作成した。

年 月 日<学級> 年 組 男子 名 女子 名 計 名

<p>○学級集団の背景</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の特徴・・・郊外の農業地帯にある小規模校 ・学級編成の状況（持ち上がり等）・・・
<p>○学級の公的なリーダーの生徒（番号と簡単な説明）</p> <p>男子・・・</p> <p>女子・・・</p>
<p>○学級で影響力の大きい・陰で仕切るような生徒（番号と簡単な説明）</p> <p>男子・・・</p> <p>女子・・・</p>
<p>○行動態度や心理面で気になる生徒</p> <p>男子・・・</p> <p>女子・・・</p>
<p>○プロットの位置が予想外の生徒（番号と簡単な説明）</p>
<p>○学級内のおもな小グループを形成する生徒</p> <p>男子</p> <p>女子</p>
<p>○4群にプロットされた生徒に共通する特徴</p> <p>満足群・・・・・・・・</p> <p>非承認群・・・・・・・・</p> <p>侵害行為認知群・・</p> <p>不満足群・・・・・・・・</p>
<p>○学級の問題（課題）と感じていること</p>
<p>担任の方針</p> <p>学級経営</p> <p>授業の展開</p>

資料9 第2回 Q-U・生徒観察を用いた事例研究のための報告シート

対象学年（ 学年 組）		名前（ ）	
	伸びたこと・良さ・変化・強み	気になること	気になることに対するアイデア・思いつき・支援・援助
学年	(その理由・要因)	(その理由・要因)	
個人	(名前を出して) (その理由・要因)	(名前を出して) (その理由・要因)	

資料10 事例検討会教師アンケートの結果

第1回 事例検討会 教師の感想

第1回事例検討会の教師の感想を「理解・認識」「有用感」「振り返り」「実践への意欲」「困難さ・課題」に分類したものを示す。(表4)

表4 第1回 事例検討会 教師の感想

理解・認識	<ul style="list-style-type: none"> ・Q-Uの研修の進め方、活用の仕方について理解できた。 ・個を見据えた振り返り、考えの共有、ベクトルをそろえる大切さ。 ・生徒に対する共通認識を持つことができた。 ・教師同士が受容感、自己肯定感を持てる場となる必要がある。
有用感	<ul style="list-style-type: none"> ・データに基づいた対策の取り方は有効である。 ・生徒理解と教師自身の振り返りの場になった。 ・生徒の実態を分析することで意識を高めることができた。 ・データをもとに協議していくことで生徒理解を深めることができる。
振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・観察による生徒理解の限界を感じる。 ・さまざまな角度からのアプローチを聞け、自分の視野が広がった。 ・他の先生と生徒の見方が違っていた。 ・自分の考えを再確認したり、考えが広がった。
実践への意欲	<ul style="list-style-type: none"> ・配慮の必要な生徒に声掛けをしていきたい。 ・居場所のある学級づくりや自己肯定感を高めることに取り組みたい。 ・生徒への接し方を変えてみようと思う。
困難さ・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・問題の分析はできるが実践はなかなか難しい。 ・対応策を具体的にどう実施するか。 ・学年会など、後の行動を起こす必要がある。

第2回 事例検討会 教師の感想

第2回事例検討会の教師の感想を「理解・認識」「有用感」「振り返り」「実践への意欲」「困難さ・課題」「検討会のあり方・進め方」に分類した。(表5)

表5 第2回 事例検討会 教師の感想

理解・認識	<ul style="list-style-type: none"> ・プロット図だけではなく、質問項目の結果の一覧を分析することで、プロット図だけでは見えない生徒個々の分析ができた。 ・この会を通して、先生方の考え方、思い、個性を理解できる良い機会になる。 ・自分の意見が否定されず、人の意見を聞いて、自由に意見が出せる学年の検討会だった。 ・できていないことを突き詰めていくよりもできているところからどうスタートするかを考えるという活動は、自己肯定感とやる気と仲間意識が生まれる。 ・生徒が受容され肯定感を生むためには周りから認められる活動体験が必要だ。 ・生徒が変わることが分かった。われわれ教師はあきらめてはいけない。 ・検討会を通して生徒理解を深め、教師の共通認識を高めることは大切である。 ・Q-Uアンケートの結果(図や数字)を認識し、たがいに討議することで、共通
-------	--

	理解が深まり、その手立てが見えてきた。
有用感	<ul style="list-style-type: none"> ・Q-Uの結果から具体的な支援方法まで考えることができてよかった。 ・各学年の課題と支援が確認できた。 ・学年だけにとどまらず、他学年の意見も聴けたのは、大変参考になることも多く有意義であったと思う。 ・各学年で話し合われたことを、全体で共有することで学校全体の様子やこれからの方向性が見えて、今後の指導や支援に役立てることができる。 ・なんとなく思っていたことが数字となって現れてきているので、自分の考えを確認できたし、わかりやすかった。
振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の問題点ばかり浮き彫りになるのではなく、個々の生徒が持っている良さの部分にも目を向けることで、これから引き延ばしていくべきことも意識することができる。同時に、改めて教師としての意欲・責任感も増したように思う。 ・先生方の意見が聞けて、一人では気付かなかった点やいろいろな見方があることに気付いてよかった。 ・今回は2回目で少し生徒が見えてきていたので、生徒に対する見方や思いなど意見を出せてよかったです。自分でも考える力が付きます。 ・「やらずことできるようになること」を重視しすぎて「育てる」という意識が低かったことに気付いた。 ・学年、個人の良さ、強みを見つけることに苦労した。日頃からの観察をもっと重ねておくことの必要性を痛感した。
実践への意欲	<ul style="list-style-type: none"> ・全学級に関わっているので、支援を授業でしっかり意識したい。 ・これから行うべき支援について具体的なプランをたてて取り組みたい。 ・受容感を生徒が体感できる活動を仕組んでいけたらと思う。 ・本日、出た内容を今後の取り組みで生かし継続していくことが肝要だ。
困難さ・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・Q-Uの結果を教師の取り組みの不十分さと感じることが弱い先生がいるのは残念。子どもの批判をするのではなく何とかしようとする気持ちが大切である。 ・具体的な支援に対して自分・学年団としてもあまり出なかったことは反省点である。
検討会の在り方・進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・検討会は続けることが大事である。 ・出し合い話で終わらず、ポストイットなどで自分の意見や考え方を書いてまとめることはすごく良かった。文字にすることは意識の向上につながる。 ・ほとんどの先生が授業や生活のなかで全校生徒に関わっているので、他学年の先生からみた意見や生徒個々の様子、対応策を検討する場面設定があればよいと思います。 ・全学年の授業をしているので、他学年に入って協議をしたいと思いました。 ・できれば全員の先生で、全体としてこんな方向でやろうというような話し合いができないでしょうか。 ・事例検討会の中身として、良さ・課題がよく出されたと思います。これは事例検討会の流し方のレジュメが良いからと思う。これからの生徒の話し合い活動でもこのようなレジュメを使って生徒に話し合わせることで、力が付いてくると思われる。